

伝統工芸美川刺繍教室「伝え受け継ぐ美しい伝統文化」

暮らしの中にいきいきと溶け込み、世紀を超えて生きる作品創りに向けて

かほく市 林 貴江

平成29年3月7日(火)～3月13日(月)、第22回美川刺繍教室作品展がJR美川駅2階「美川37 Cafe」で開催されました。美しい伝統工芸美川刺繍を後世に受け継ぎたいと活動している美川刺繍教室を紹介します。



○美川刺繍の歴史

旧美川町は、江戸時代に商港として栄え、加賀百万石の財政の源であり、明治5年石川県庁が開庁された県下一の富める町でした。

しかし、美川港の急速な衰退が廻船業者や各階層に波及した時、家計を助ける主婦の手内職として取り入れたのが「美川刺繍」でした。それが美川町の重要な特産の一つとなったのです。

この刺繍は明治23年(1890)当時、旅館業兼料理業を営む餅田半次郎氏が京都から指導者を招き、ハンカチに刺繍をしたことに始まります。その後、竹仲忠松氏が引き継ぎ、販路の開拓をした結果、

縫子230人を数え近村にも工場を設けるほどになりました。

しかし、明治末期の貿易不振は刺繍業界にも影響を及ぼし、一時衰退しました。やがてハンカチ刺繍に代わって明治44年には半襟刺繍が盛んとなり、昭和3年に帯地刺繍が加わると、工場数27、縫子750人に達する盛況ぶりでした。

製品は京都の間屋筋の注文によって、派手好みの関西向きが4分の3、上品好みの関東向きが4分の1の割合で作られ、「加賀刺繍」の名で呼ばれるようになりました。

戦争中は、経済統制のためほとんど転・廃業に追い込まれましたが、幸い貴重な技術は予科練の襟章や腕章などによって継承され、戦後は外国人向けのハンカチ刺繍などでいち早く復活しました。今日では、帯・打掛け・振袖などにみる「美川刺繍」の豪華で繊細な美しさは高く評価されています。

ご成婚後の皇太子妃殿下美智子さま(現皇后陛下)のお召物にも「美川刺繍」が施されました。

昭和49年にこれまでの高級呉服刺繍から脱し、新しい「美川工芸部門」に進出し、芸術的な刺繍として美川工芸刺繍株式会社を金沢で開設しました。家紋刺繍額、創作美術刺繍額、旗、舞台幕を中心に販路の拡大に努めてきました。

その後、加賀刺繍として、平成3年5月には、国(通産省)の伝統工芸の指定を受け、同年10月の石川県体の折には、伝統産業のご視察として、天皇・皇后両陛下の行幸啓を賜り、刺繍の実演をご覧になられました。(旧美川町監修)

○美川刺繍の刺し方

- ① 縫いきり 絵型の中心へあるいはカタカナの「ミ」の反対にさす法
- ② すが(菅) 布地目をなぞって刺す法
- ③ まつい 線、木の枝、絵型の縁どりなどに
- ④ かいこみ まついよりさらに細かく棒状に刺す法
- ⑤ 刺し縫い 糸の太さに差をつけて数回にわたり刺しこむ法
- ⑥ 割り縫い 真ん中に向かって左右両方から刺す法
- ⑦ 平糸縫い 平糸のまま刺し、わたのような感じを出す法
- ⑧ さがら(相良) 縫いつぶし糸で輪をつくり、その中へ針



- を通して結びをつくる法
- ⑨ 駒縫い 金糸や銀糸を絵型に
そってゾベ糸で留める法
- ⑩ 糸どめ 玉どめ(裏)、かく
しどめ、チョンとめ、手入れ
どめ

○美川刺繍教室(生活会議)の誕生
平成3年(1991)石川国体
が開催され、旧美川町はバトミン
トンの会場となりました。選手や
関係者へ「美川刺繍ハンカチ」を
作りプレゼントすることになりま
した。その縫子だった人たちが中
心となり、地区の主婦に刺繍の手
ほどきをしたのが「美川刺繍教室」

の始まりです。

美川公民館が教室となり、地区
の人がハンカチ、半襟、ブローチ
等を作っていました。また、美川
中学校のゆとりの時間に教室の人
が、生徒に教えに行き共同で作品
展の開催もしていました。

○県民大学文化探究コース併設

「美川刺繍教室」の代表となっ
た松嶋外枝さんが、『美川刺繍の
火を消すな！伝統工芸を守り、後
世につなげよう』と奮闘し、石川
県民大学校として発展させ、県内
全域から受講生を募ることになり
ました。運営は、松嶋さんを中心
に、旧美川町在住の人が中心とな
りおこない、「美川刺繍教室」が
継続されました。

○新たな挑戦

大きなリーダーだった松嶋さん
がけがのため第一線を引退しまし
たが、長期生の中橋さんや濱上さ
んが代表となり新体制で教室の運
営が始まりました。

- ① 仕事は全員で分担
- ② 技術指導は長期性が担当
- ③ 学年ごとにテーマを決めて刺
繍の技術向上に励む
- ④ 茶話会の開催
教室が休館日と重なった日に
開催。疑問質問を解決し、学

年間の交流やお互いの理解を
深めている。

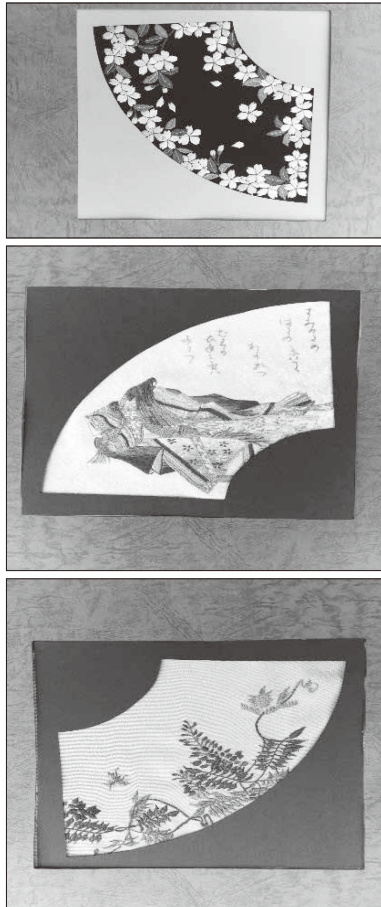
- ⑤ 楽しみな研修会
四期生が立案実施。石川県の
伝統工芸・文化の体験
受講生共同作品に挑戦
- ⑥ 三期生以上が毎年テーマを決
めて共同作品作りを行う。

- 平成25年度 「四季彩」
 - 平成26年度 「さくらさくら」
 - 平成27年度 「花づくし」
 - 平成28年度 「誰袖(たがそで)」
 - 平成29年度 「扇の舞」制作中
- ※左写真完成した作品の一部

回を重ねるごとに皆が切磋琢磨
し技術向上につながっている。

○教室の一日

- ・ 6月第2週火曜日が開校式
- ・ 6月から翌年3月まで、毎週火
曜日、9時半から11時半まで
- ・ 3月作品展(二年の成果の発表)
- ・ 一期生は、基本の刺し方、糸の
より方を練習。11月からは作品
展に向けて「包みふくさ」作り
- ・ 二期生は、「掛けふくさ」作り
(一、二期生は布選び、図案は
先輩に相談しながら進める)
- ・ 三期生以上は共同作品作りと各
自の作品作り
- ・ 十年以上の長期生が中心となり
指導を行う
- ・ 机、椅子の準備、片付けは各自
- ・ 教室の終わりには必ず針の確認
をする



○今後に向けて

刺繍に携わってきた人や、直接指導を受けた人たちが高齢となる中、本物の「美川刺繍」をどのように受け継ぎ、伝承していくかが課題です。5年10年と教室に通う中、どんどん美川刺繍の奥深さを感じ、同時に難しさを肌で感じるようになってきました。

「美川刺繍」を沢山の方に知って頂きたくて、今年度は、美川駅の作品展だけでなく、石川県立生涯学習センターや石川県女性センターでの作品展を開催しました。

会場に足を運んでいただき、美川刺繍の繊細さを直接見ていただき感じていただければと思います。

平成30年

JR美川駅2階「美川37Cafe」

3月6日(火)～12日(月)

9時半～16時半(期間中無休)

6日は13時から16時半

※石川県女性センター展示

平成29年7月6日～12日

(右側下写真 花づくし)

※石川県立生涯学習センター展示

平成29年9月2日～28日

(左側下写真 誰袖)

